

# 生き死にの形

集落転前に墓のシンを抜く。屋敷神のこく  
 小さな祠でも、お移しする時には、神主を  
 たのんでシンを抜いてもらう。祖先から家の  
 神々まで、こぞってお移りねがうのである。



井沢には、産婆や助産婦がおらず、妊婦に陣  
 痛がきてから隣の庄田まで送えに行っても間に  
 合わなかった。出産にあたって妊婦を介助した  
 のは、出産経験豊かな地域の女たちだった。彼  
 女たちは「へその緒結ぶ」と呼ばれ、出産させ、  
 産声を上げさせ、へその緒を剪き、胎衣を始末  
 し、産後の母子を見守った。人が生まれるとき、  
 欠かさない人々であった。井沢で病院での出産  
 がふつうになるのは、昭和四十年代になって  
 からという。

仙石藩のころ、井沢には宗達院という寺院が  
 あった。しかし明治になって廃寺となり、死者  
 があつたとき古田から僧侶が山道を駆けつける  
 のは難しく、運送も葬儀も埋葬も、井沢の人々  
 だけで行っていた。それとをどこおりにくりに行  
 うしくみが、代々つづく「契約婚」のしまたり  
 だった。僧侶の菩提にかゝるものとしては、隣  
 の人々がみなで唱える「要令仏」が伝えられて  
 いた。



樽沢山中の瘞墓地跡石塔群

